

和歌山工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	保健・体育A	
科目基礎情報							
科目番号	0029			科目区分	一般 / 選択		
授業形態	演習			単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	知能機械工学科			対象学年	5		
開設期	後期			週時間数	2		
教科書/教材	保健体育概論						
担当教員	中出 明人,芥河 晋						
到達目標							
15歳～20歳の年代の身体的、精神的な特徴を理解し、各種の運動の実践を通じて、自己の身体への認識を深め、健康・体力・運動能力の保持、増進を図る。 ルールや規則を守り、安全に留意し運動を通じて健康な人間関係を保つ態度を養う。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目 1	各授業に出席して積極的に運動等の課題に取り組み、健康・体力・運動能力の増進を図ることができる			各授業に出席して運動等の課題に取り組み、健康・体力・運動能力の増進を図ることができる		各授業に出席して運動等の課題に取り組み、健康・体力・運動能力の増進を図ることができない	
評価項目 2	各競技の特性や特徴を十分に理解し、基礎動作を高いレベルで実践できる			各競技の特性や特徴を理解し、基礎動作を実践できる		各競技の特性や特徴の理解が不十分で、基礎動作を実践できない	
評価項目 3	授業内容を十分に理解し、小テスト等で問われた事柄の大半に回答できる（8割以上の正解率が目安）			授業内容を理解し、小テスト等で問われた事柄の多くに回答できる（6割程度の正解率が目安）		授業内容の理解が不十分で、小テスト等で問われた事柄に十分に回答できない（3割以下の正解率が目安）	
評価項目 4	各種運動のルールや授業を進める上での規則を十分に理解し、授業運営に積極的に参加できる			各種運動のルールや授業を進める上での規則を理解し、授業運営に参加できる		各種運動のルールや授業を進める上での規則の理解が不十分で、授業運営に参加できない	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	健康と運動の関係を理解し、卒業後も生涯スポーツとして運動を継続できるよう全員が楽しめるような競技運営ができるようになることを目指す。						
授業の進め方・方法	授業は週1回開講。授業内容はゲーム中心で行う。						
注意点	選択種目については希望者の人数に応じて開講種目を調整する場合がある。また、天候等の理由により屋外種目実施が困難な場合は雨天種目を行う。これに伴い実施種目が前後することがある。 体育館実施種目は体育館シューズ、屋外実施種目は運動靴を着用すること。 見学する場合は事前に見学カードに必要事項を記入し、担当教員へ提出すること。						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	選択1-① ソフトテニス、バドミントン、ソフトボールから1種目を選択		各種目、学生自らが内容を立案し、全員が楽しめるような競技運営ができる		
		2週	選択1-② ソフトテニス、バドミントン、ソフトボールから1種目を選択		各種目、学生自らが内容を立案し、全員が楽しめるような競技運営ができる		
		3週	選択1-③ ソフトテニス、バドミントン、ソフトボールから1種目を選択		各種目、学生自らが内容を立案し、全員が楽しめるような競技運営ができる		
		4週	選択2-① ソフトテニス、バドミントン、ソフトボールから1種目を選択		各種目、学生自らが内容を立案し、全員が楽しめるような競技運営ができる		
		5週	選択2-② ソフトテニス、バドミントン、ソフトボールから1種目を選択		各種目、学生自らが内容を立案し、全員が楽しめるような競技運営ができる		
		6週	選択2-③ ソフトテニス、バドミントン、ソフトボールから1種目を選択		各種目、学生自らが内容を立案し、全員が楽しめるような競技運営ができる		
		7週	選択3-① バスケットボール、バレーボール、サッカー、卓球から1種目を選択		各種目、学生自らが内容を立案し、全員が楽しめるような競技運営ができる		
		8週	選択3-② バスケットボール、バレーボール、サッカー、卓球から1種目を選択		各種目、学生自らが内容を立案し、全員が楽しめるような競技運営ができる		
	4thQ	9週	選択3-③ バスケットボール、バレーボール、サッカー、卓球から1種目を選択		各種目、学生自らが内容を立案し、全員が楽しめるような競技運営ができる		
		10週	選択4-① バスケットボール、バレーボール、サッカー、卓球から1種目を選択		各種目、学生自らが内容を立案し、全員が楽しめるような競技運営ができる		
		11週	選択4-② バスケットボール、バレーボール、サッカー、卓球から1種目を選択		各種目、学生自らが内容を立案し、全員が楽しめるような競技運営ができる		
		12週	選択4-③ バスケットボール、バレーボール、サッカー、卓球から1種目を選択		各種目、学生自らが内容を立案し、全員が楽しめるような競技運営ができる		
		13週	雨種目バレーボール①		全員が楽しめるようなゲームを行える		

	14週	雨種目バレーボール①	全員が楽しめるようなゲームを行える
	15週	雨種目バレーボール①	全員が楽しめるようなゲームを行える
	16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
分野横断的能力	態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	周囲の状況と自身の立場に照らし、必要な行動をとることができる。	3	
				自らの考えで責任を持つてものごとに取り組むことができる。	3	
				目標の実現に向けて計画ができる。	3	
				目標の実現に向けて自らを律して行動できる。	3	
				日常生活における時間管理、健康管理、金銭管理などができる。	3	
				社会の一員として、自らの行動、発言、役割を認識して行動できる。	3	
				チームで協調・共同することの意義・効果を認識している。	3	
				チームで協調・共同するために自身の感情をコントロールし、他者の意見を尊重するためのコミュニケーションをとることができる。	3	
				当事者意識をもってチームでの作業・研究を進めることができる。	3	
				チームのメンバーとしての役割を把握した行動ができる。	3	
				リーダーがとるべき行動や役割をあげることができる。	3	
				適切な方向性に沿った協調行動を促すことができる。	3	
				リーダーシップを発揮する(させる)ためには情報収集やチーム内での相談が必要であることを知っている	3	
				法令やルールを遵守した行動をとれる。	3	
				他者のおかれている状況に配慮した行動がとれる。	3	

評価割合

	参加状況	技術習得度	学習意欲および態度	合計
総合評価割合	70	20	10	100
配点	70	20	10	100